



今後10年の財政シミュレーション

町長 大変厳しいものと認識している

問

今後10年から15年で想定される大型事業費の主な積上げ金額。

- ① ひらふの駐車場・交通ターミナル 35億円
 - ② 小学校適正配置 12億円
 - ③ 厚生病院改築負担金 5億円
 - ④ 消防力整備負担金 4億円
 - ⑤ 環境衛生負担金 4億円
 - ⑥ 新幹線関係負担金の合計 46億円
 - ⑦ プールの改築 5億円
 - ⑧ 高齢者向け住宅 1億円
 - ⑨ 清掃センター解体・改修費 5億円
 - ⑩ 流雪溝更新負担金 3億円
 - ⑪ 新庁舎建設 30億円
- 以上合計 150億円と示されているが、150億円では済まないと考える。
- 町有地であるアルペンホテル敷地の売却を耳にしているが、原資になる金額の捻出は。

町長

2030年度までの財政シミュレーション、将来的な大型事業に係る積上げ金額の事業費総額は150億円。財政指標の一つである実質公債費比率は、2030年度にピークを迎え、3カ年平均15・5%と予

想。将来負担比率は203・3%と推計したところである。

3カ年平均で18%以上になると、地方債の発行に許可が必要になる。25%以上になると地方債発行の一部が制限される。樂觀視できる範囲ではなく、むしろ大変厳しいものと認識している。

ホテルアルペンの売却については決定したわけではないが、現在、土地評価鑑定をする目的で予算が可決された。それを基に、この敷地が売却することになるかどうか、今後の交渉次第と考えている。

基幹病院としての倶知安厚生病院の役割は

問

厚生連から改築費用30億円、倶知安町負担で21億円と聞いているが、町とのすり合わせが足りていない。

未だに厚生連の会長とのトップ会談が実施されていない。町長として、まず挨拶から物事を始めていくべき。以前までの補助金議論は消極的である。今お医者さんの充足率もかなり以前に比べてよくなって

おり、お医者さんは使命感を持って、地域の人たちと向き合うとみんな頑張っていてい

る。厚生病院をきちんとした総合病院として残すことは大事なライフラインの一つである。山麓の7カ町村を代表して、町民を代表して、1カ月に1回ぐらいでいいです、まずは厚生連の会長に挨拶をすることが大事と考える。

町長

倶知安厚生病院の基本的な医療機能は代替性がなく、大変重要であることから、この地域の基幹病院として必要不可欠と考えている。

改築費用の全額負担が求められているが、山麓7カ町村として、北海道厚生連側に応分の負担がないことに対し、地域住民から理解が得られないなどの理由から、協議は平行線に近い形で結論を出すまでに至っていない状況。

倶知安厚生病院の改築整備は極めて重要であると認識しており、議会をはじめ、圏域住民の御理解をいただきながら、改築整備を推進し、災害拠点病



今後の倶知安厚生病院の役割は

院、さらには基幹病院としての機能強化を図りたいと考えている。